

10月



令和4年(2022年)第41週 2022年10月10日(月)~2022年10月16日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●日本脳炎について

日本脳炎の届出がありました。熊本県内では平成26(2014)年以来の発生となります。

◆日本脳炎について

「日本脳炎」国立感染症研究所ホームページ



日本脳炎は、蚊が媒介するウイルスによる感染症で、日本では、夏から秋にかけて患者が発生します。ウイルスを保有した蚊が、免疫のないブタを吸血するとブタは感染し、ウイルス血症(感染2~3日後から3日間程度持続)を起こします。このウイルス血症時のブタを吸血した蚊がウイルスを媒介するようになります。ヒトはウイルスに感染しても症状が現れずに経過する場合(不顕性感染)がほとんどですが、発症した場合 20~40%が死亡に至る病気です(100人から1000人の感染者の中で1人が発病すると報告されています)。症状が出る場合、6~16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などが現れ、引き続き急激に、光への過敏症、意識障害(意識がなくなること)、けいれんなどの中枢神経系障害(脳の障害)を生じます。このような症状があれば早めに医療機関を受診してください。蚊は気温が15~32℃で活動するとされており、蚊が活動する秋頃までは注意が必要です。ヒトからヒトへの感染はなく、また感染者を刺した蚊にさされても感染することはありません。

◆感染を防ぐためには

- ・蚊に刺されないように心がけましょう。
- ・コガタアカイエカは日没直後から活動が活発になるといわれています。幼虫の発生場所は水田や湖沼。吸血嗜好性はブタ・ウシ・ヒト・トリ。成虫のまま越冬します。活動範囲が広く、移動距離は>10km(200km/1晩)といわれています。
- ・蚊の多い場所では、できる限り長袖、長ズボンを着用し、虫除け剤を使用しましょう。
- ・日本脳炎ワクチンを接種することで罹患(りかん)リスクを75~95%軽減することができると報告されています。



年	患者発生数(人)	
	熊本県	全国
平成24年	1	2
平成25年	2	9
平成26年	1	2
平成27年	0	2
平成28年	0	11
平成29年	0	3
平成30年	0	0
令和元年	0	9
令和2年	0	5
令和3年	0	3
令和4年(本年)	3	5

令和4年10月20日時点、本事例を含む熊本市の数値は熊本市を含む

期 間		2022年 40週		2022年 41週	
		10/3~10/8		10/10~10/16(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	17	1.06	13	0.81
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	0	0.00	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	3	0.19	2	0.13
感染性胃腸炎	➡	44	2.75	39	2.44
水痘(みずぼうそう)	➡	0	0.00	0	0.00
手足口病	➡	32	2.00	27	1.69
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	5	0.31	2	0.13
ヘルパンギーナ	➡	7	0.44	2	0.13
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	2	0.40	2	0.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	2	0.40	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	1	0.20